

との別れを惜しむ声もあるが、観測専門の因天文館が理論専門のケンブリッジが一緒になることのメリトは大きいそうだ。

だが、直接の動機はどうやら経費削減らしい。金の日本にはスコットランドの古城を買い取って解体し、シベリア鉄道で運ぶと計画している人がいる。そういうたら、英國同僚は信じられないといふ顔つきをした。

クリニッジ天文台は世界標準時の原点として有名である。東経〇〇度といふのも、これを基準にして測ることになっている。このクリニッジ天文台はロンドンの東約八キロメートルである。

「あつた」と書いたのは、戦後同天文台がロンドンの南約八キロメートルの小村にあるハーモントサンソード城といふ十八世紀の古城に実質上あったからだ。空襲による被害がひどかったので、町の灯を避けるためだった。最新科学の本拠地に古城を選ぶなど、歴史あるものを感じて興味深い英

ことなかで察つて見いだ
ことを悪い出。
今年、日本の大型超電導
計画の現状説明と日英協力
の相談を行った。日英協力
に対する英國側の期待は非
常に大きいと感じた。英國
が日本流でどう今こそ、
日本が英流で世界の知性
となるチャンスだ。

地平綱

ケンブリッジなど一九八三年のことだった。中古で買った子し上で、お気に入りのルボ番組「地平線」を見ていた。その日の題は「これからの英國科学」。英國は基礎科学に多大な投資をしてきた。巨大加速器、核融合実験炉、大型望遠鏡……。確かにこれらの分野は世界的に成果を上げてきた。だが、金がかかり過ぎる。財政難の英國としては、もっと安くて実用になれる応用分野に金を使るべきではないか。日本を見習おう。あの国は基礎科学に見向きもしないで、応用に投資してきた。おかげで経済

日本ではまた国債財産となる施設を海外に置いた前例がない。その基礎科医学に対するわが國の方針をどうするかが問題である。

変わる英國科学 国際協力

英國の天文学者は世界中を駆け巡っている。それといふのも、海外にいくつも天文台を国際協力で作り、使っておるからだ。

王立グリニッジ天文台は、ラ・パルマ天文台(大西洋カナリ島諸島)と英豪天文台(オーストリア)にトップクラスの望遠鏡を作った。王立エジンバラ天文台はオーストリアと三角ショミット型望遠鏡を置き、ハワイには赤外線望遠鏡と新型の電波望遠鏡を建設した。

ジェット機の時代とはいっても、英國からハワイや

はしない。この柔軟さの波
いは大きいのではないで
らか。
日本天文学會推薦で五士
一歳にして日本學術會議
員になられた杉本大一郎君
んは最年少會員だそうだ。
天文学の「コミュニティー」は
日本の學者社會の中では最
も健全な方なのかもしけれ
。

若手起用

気にいつているジョークをひとつ。「英國では禁じられていない限りなんでも許される。ドイツでは許されていない限りすべて禁止だ。(イタリアでは禁じられたとしてもすべて許される)」(イタリアびいきの方、くめんなさい)。英國と西欧に一年ずつ留学しただけはで、しかも狭い社会しか知らない。それでもいろんな面で違いを感じた。